

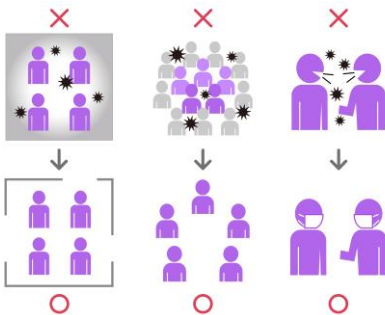
新型コロナウイルス  
(無料イラストより)

## 新型コロナはウイルスです

爆発的な広がりを見せる新型コロナ(COVID-19)は、4月14日現在、日本の感染者は約8千人、世界ではおよそ185万人にのぼり、死者も11万人を超えました。

期待されるワクチンも、実用化するまでに数年もかかるそうですので、現状の増加率から推計すると、今後コロナ禍は、空前絶後の社会状況を生み出すことになるかと推測します。ここで私どもが認識しておかなければならないことは、新型コロナはウイルスだということです。つまり、ウイルスである以上、感染を防ぐことは極めてむずかしいということです。

## できることをキチンとやる



NO! 3密  
(無料イラストより)

それでも予防は大切です。不要不急の外出を自粛し、3密を避け、マスク着用、手洗い、うがい等々とできることをキチンと行なうことが自分を守り、周りの人を守ることに繋がることは間違いありません。

しかし、命がけで頑張っている医療関係者、社会福祉関係の方々や、国や自治体が声高に注意を喚起しているにもかかわらず、なぜ予防が徹底できないのでしょうか。

そこには、あるバイアスが働いていると考えます。

## 「楽観バイアス」という魔物

「楽観バイアス」とは、物事を自分に都合よく考えてしまう人間心理のひとつです。

例えば、「私だけはコロナに感染しない」「私だけは大丈夫」「何とかなるさ」等々、根拠もなく自分を特別扱いです。そのように思うのは勝手ですが、予防ができない人は「楽観バイアス」が、幻想に過ぎないことを早く知るべきです。なぜならば、「楽観バイアス」にとりつかれた人々こそが、同じベクトルに向かって行動する人々の足かせとなると思うからです。

予防を実践するしかない社会状況下である現在、「楽観バイアス」の持ち主は、幻想を捨てて、現実と真正面から向き合う勇気を持っていただきたいと思います。

## 「危機管理」の要諦とは

危機管理の第一人者であった佐々淳行氏は、「危機管理」とは、「想像力を働かせることだ」と言い切っています。その上で、「できる限り悲観的に考え、考えぬいたら楽観的に希望を持って行動せよ」と述べています。

コロナ禍の最前線で働く全ての人たちに感謝の意を表するとともに、人として正しい行動を行なうよう国民に呼びかけたエリザベス英女王のTV演説は、国境を越えた危機管理のお言葉として、我々日本人の心にも深く刻む必要がありそうです。

文責 佐々和亮